

令和4年5月11日

奈良女子大学教育計画室IT教育部門会議

令和3年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」自己点検・評価結果

## プログラムの概要

学士課程における学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、全学教育科目である「情報処理入門I」をプログラム科目として開設し、履修した者には、プログラムの修了証を発行する。

同科目は、従来の内容から、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」の内容の一部を改編し、履修した学生が「理解度確認テスト」に合格した場合、プログラムの修了証を獲得できる仕組みとなっている。

## 自己点検・評価

### 1. プログラムの履修・修得状況

本プログラムの対象は、令和3年度以降に在籍する学生としている。プログラム科目「情報処理入門I」の履修割合は、全学部生を母数（令和3年5月1日現在2,145名）とすると、履修者数483名で22.5%であった。このうち、理解度確認テストの受験者数が281名、うち合格（60点以上）271名に本プログラムの「リテラシーレベル」の修了証を発行した。

特に、令和3年度新入生（1年次）は、在籍者数501名中460名が受講しており、受講率は91.8%である。これは、当該科目がすべての学部において、選択必修の科目となっていることに由来する。本プログラム科目は2年次以降にも履修が可能であるため、4年間を通してプログラム修了を目的とすることができ、文系・理系を問わず既に学生全体の4分の1近い数の者が「リテラシーレベル」の修了要件を満たす単位数を修得している。

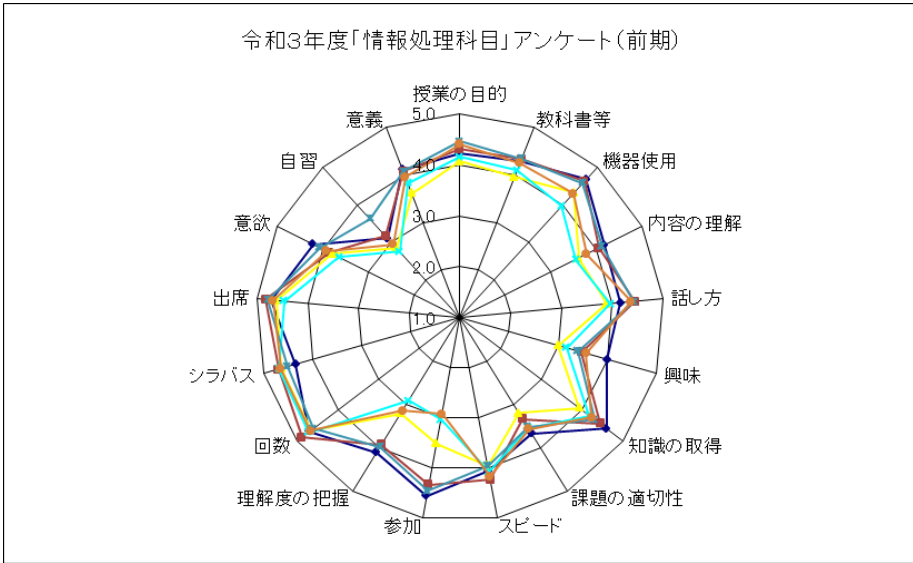
これらのことから、プログラムの履修状況・修得状況ともに良好であると判断できる。

学修成果は、「理解度確認テスト」の実施により確認し、受験者の合格割合は、97%となっている。

### 「理解度確認テスト」

「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」の5つの項目から、各2問ずつ、計10問で構成。

また、授業評価として、例年実施している全学共通科目対象の授業アンケート結果から、プログラムの目的が学生に伝わり、意欲的に取り組む姿勢がみられることが分かった。



分野	科目番号	科目名	受講者数	回答数	回収率	授業の目的	教科書等	機器使用	内容の理解	話し方	興味	知識の取得	課題の適切性	スピード	参加	理解度の把握	回数	シラバス	出席	意欲	自習	意義
情報処理科目	0135001	情報処理入門Ⅰ(A)	44	18	41%	4.2	4.3	4.7	4.2	4.2	4.0	4.6	3.7	4.1	4.6	4.1	4.7	4.4	4.7	4.2	3.1	4.1
	0135002	情報処理入門Ⅰ(B)	95	42	44%	4.3	4.3	4.6	4.0	4.5	3.5	4.5	3.3	4.2	4.3	3.9	4.9	4.7	4.8	3.9	3.2	4.1
	0135003	情報処理入門Ⅰ(C)	89	45	51%	4.1	4.0	4.3	3.6	3.9	3.0	3.9	3.2	4.0	3.5	3.2	4.7	4.6	4.6	3.8	2.9	3.6
	0135004	情報処理入門Ⅰ(D)	75	53	71%	4.2	4.1	4.0	3.5	4.0	3.2	4.2	3.5	4.1	3.0	2.9	4.7	4.7	4.5	3.7	2.8	3.8
	0135005	情報処理入門Ⅰ(E)	70	42	60%	4.5	4.4	4.6	4.1	4.4	3.4	4.3	3.5	4.0	4.5	4.0	4.6	4.5	4.8	4.1	3.6	4.1
	0135006	情報処理入門Ⅰ(F)	112	54	48%	4.4	4.3	4.3	3.8	4.4	3.6	4.2	3.6	4.2	2.9	3.1	4.7	4.7	4.7	3.9	2.9	4.0
	平均		80.8	42.3	52%	4.3	4.2	4.4	3.9	4.2	3.4	4.3	3.5	4.1	3.8	3.5	4.7	4.6	4.7	3.9	3.1	3.9

これらの成果確認により、データサイエンスの重要性が認識され、初歩的な知識・技術は修得できていると評価できる。

## 2. 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

全学教育科目として前期に開講している「情報処理入門Ⅰ」は、各学部とも選択必修科目として設定している。この科目では、「数理・データサイエンス・AⅠ(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」の内容の基本を網羅しており、本プログラム科目として、令和2年まで開設していた同名称科目を一部変更したものである。これにより、令和3年度以降に在籍する全ての学生は本プログラム科目を履修することが可能となった。

プログラムの修了認定のための「理解度確認テスト」については、当該授業の中で説明がなされ、授業の終了とともにテストの実施に誘導されるため、学期の終わりに修了者の確認が行われ、次の学期当初に修了証を受け取ることが可能となっている。

また、令和4年度からは、令和2年度までに変更前の「情報処理入門Ⅰ」を履修している学生のために、「数理・データサイエンス・AⅠ(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」の内容を満たす1単位の科目を全学教育科目に増設し、履修者増により、プログラムの修了者が増加す

ることが見込まれる。

令和3年度からの取組みであることとともに、令和4年4月の法人統合により、プログラムの推進強化のための新たな組織作りまでは着手できていないが、既存の教育計画室IT教育部門会議を強化し、全学教育ガイド（履修案内）や各学部ガイダンスでの周知を通じて、学生の認知度は高く、データサイエンス学習への興味・関心が高まっていることが見受けられる。

これらのことから、全学生に占める履修率は、学年進行により85%以上の数値となる見込みであり、履修者数及び履修率向上へ向けた進捗状況は順調であると評価できる。